

# 国立感染症研究所による感染症調査

平成23年4月12日

23年4月5日(火)～4月8日(金)

・岩手県(盛岡、宮古、山田、大槌、釜石の避難所とその周辺地域)

谷口感染症情報センター第1室長、藤本感染症情報センター第4室長、小林昆虫医科学部長

・宮城県(仙台、石巻、南三陸、気仙沼の避難所とその周辺地域)

宮崎生物活性物質部長、金子生物活性物質部主任研究官、中島感染症情報センター主任研究官

## 1 感染症の現状と評価

現状の感染症の発生は、平時に発生する感染症と大きな差はみられないが、衛生状況は避難所によって状況に大きな差。引き続き、注意が必要。

(1) 被災地の環境由来の感染症:

被災地の汚泥や空気に由来する感染症はみられない。

(2) 特殊な感染症:

破傷風、レジオネラ等の特殊な感染症は、震災時の感染に由来する散発例のみがみられており、その後の増加はみられない。

(3) 通常の感染症:

インフルエンザ、下痢・嘔吐等の通常の感染症が発生しているが、大規模な流行はみられない。ただし、低栄養や体力の低下などにより、高齢者等に重症の肺炎が増加しているとの指摘がある。

## 2 提言

### (1) 短期的な提言

- ・基本的ニーズ(清潔な水・栄養)の確保  
全体として物資は足りているが、行き渡らない避難所もある。
- ・衛生環境(トイレ・手洗い・食品衛生)の確保  
改善の傾向がみられるが、衛生状態が悪い避難所がある。
  - 避難所運営を支援する者の確保が必要
  - 特に大規模な避難所では、食品衛生の視点を強化すべき
  - 例えば100人分の衛生キット(手袋、清掃道具、消毒薬、マニュアル等)をまとめて配布すれば、避難所にとって簡便。

### (2) 夏期に向けた提言

暑さによる体力の消耗、脱水などへの対応を検討すべき。これに加え、

- ・食中毒への一層の注意 → 加熱調理器の設置
- ・蚊、蠅、ネズミの発生 → 残飯、し尿、廃棄物の処理を適切に行うべき

### (3) 中期的な提言

避難所での大規模な集団生活が感染症の発生のリスクともなっていることから、速やかな仮設住宅への移行が望まれる。これに加え、

- 感染症の発生の動向を把握するサーベイランスの確保
- 乳幼児等に定期予防接種を実施する体制の確保